河南省初のジカウィルス感染症輸入症例

人民網　health.people.com.cn　　2016-09-13　　14:05　　来源：人民网-健康卫生频道

人民網北京 **09** 月 **13** 日電（曽璇）品質検査総局の公開情報によれば、**09** 月 **08** 日、河南省の検験検疫局が鄭州空港の入国審査ポイントで、検疫検査をしている中、グアテマラからの入国者から発熱や赤い発疹などの症状がある中国籍の旅客 **1** 名が見つかり、現場における迅速診断と実験室検査結果からジカウィルスの陽性反応が出た。　この患者は我が国の大陸における **23** 番目の患者であり、河南省にとっては初の輸入性患者となる。

品質検査総局情報では、**09** 月 **08** 日、韓国京城経由で入国した旅客が鄭州空港の入国検査ポイントで検査チャネルを通過した際に、赤外線検温アラートが、体温 **37.3** 度を検知した。　検験検疫スタッフが、防御措置をとり、現場の医学検査室でさらなる調査が行われた。現場における疫学調査と医学的なスクリーニングにより、旅客の脇下体温は **37.6** 度、全身の皮膚には紅疹がみられ、患者自身の言葉によれば、グアテマラで **2** ヶ月仕事をしていたが、発熱と頭痛、のどの痛みが **4** 日続いたという。

旅客は、**09** 月 **04** 日にグアテマラにいた際に発熱や頭痛が現れており、最高体温は **38.5** 度に達していたが、**09** 月 **05** 日未明に皮疹が現れ、それが全身に広がったため、現地の病院を受診（ジカウィルス、デング熱、チクングニアの検査ではすべて陰性であった）し、解熱剤やアレルギー薬を口服；　**09** 月 **06** 日にアメリカに向け同国を出発；　**09** 月 **07** 日韓国京城でトランジット；**09** 月 **08** 日に鄭州空港に到着していた。旅客は、過去 **2** 週間以内に蚊にかまれたことはない、ジカウィルス感染者との接触もないといい、周囲の人には関連症状が現れてはいない。　患者が、流行国であるグアテマラにいたことに鑑みて、ジカウィルス感染の疑いは排除できなかった。

現場の検験検疫スタッフは本人の同意を得て尿や唾液を採取し検査をし、河南国際旅行衛生保険センターの実験室で検査をおこなった。　同時に、河南検験検疫局は関連の情報を速やかに河南省衛生計生委に通報し、当該旅客を鄭州市第六人民医院に搬送し病院での治療が続けられた。

入国現場でジカウィルスのリアルタイム **PCR** 迅速診断を経て、当該旅客の尿酸プルと唾液サンプルいずれからもジカウィルスの陽性反応が得られた。　**09** 月 **09** 日、河南国際旅行衛生保険センター実験室及び河南省疾病管理センターがそれぞれに旅客のサンプルから陽性反応を得た。　**09** 月 **12** 日、中国疾病予防管理センターでの再検査により、当該患者をジカウィルス感染患者と確定診断した。

実際、WHO は、新生児小頭症とその他神経系統の病変について、『国際的に 懸念される公衆衛生上の緊急事態（**PHEIC：public health emergency of international concern**）』に当たると宣言しているが、これらの患者がジカウィルス流行と密接な関連がある可能性とされて以来、品質検査総局は相次いで対策を講じ、ジカウィルスの入国地点での予防管理を強化、ジカウィルスのリスク評価をアクティブに展開している。八部門が連合し、ジカウィルス感染の我が国への侵入予防管理に関する通知を発表しており、各地の入国ポイントでの入国検疫強化、病気の侵入防止とともに渡航注意情報の発出、感染予防の宣伝教育などを実施している。

品質検査総局は、ジカウィルス流行の予防管理工作メカニズムの要求に基づき、衛生計生などの部門とのコミュニケーションをとり、密接に状況を見守っており、速やかに予防管理措置を調整し、入国地点からの流入防止に取り組んでいる。

（編集責任：　権娟　許心怡）

http://health.people.com.cn/n1/2016/0913/c398004-28713118.html

:::::::::::::::::::::::::::::::: **以下は中国語原文** ::::::::::::::::::::::::::::::::

河南省检出首例输入性寨卡病毒病病例

人民網　health.people.com.cn　　2016-09-13　　14:05　　来源：人民网-健康卫生频道

人民网北京 9 月 13 日电　（曾璇）来自质检总局的信息显示，9 月 8 日，河南检验检疫局在郑州机场口岸对入境旅客进行检疫查验时，发现其中 1 名来自危地马拉的有发热、红疹等症状的中国籍旅客，经现场快速检测和实验室检测显示寨卡病毒核酸阳性。该病例为我国大陆第 23 例，河南省首例输入性寨卡病毒病病例。

根据质检总局消息，9 月 8 日，一名从韩国首尔转机入境的旅客在郑州机场口岸通过旅检通道时，红外测温仪报警，报警显示体温 37.3℃。检验检疫人员为该旅客采取防护措施后，将其带至现场医学排查室做进一步排查。经现场流行病学调查和医学排查，该旅客腋下体温 37.6℃，全身皮肤均可见红疹，自述有发热、头痛、咽痛 4 天，在危地马拉工作两月余。

该旅客 9 月 4 日在危地马拉出现发热、头痛，在当地测量体温最高达 38.5℃，9 月 5 日晨开始出现皮疹，皮疹逐渐扩散至全身，立即前往当地医院就诊（寨卡病毒、登革热、基孔肯雅热检测均为阴性），并口服退热、抗过敏药物治疗；9 月 6 日前往美国；9 月 7 日转机至韩国首尔；9 月 8 日从韩国首尔转机至郑州机场。该旅客否认过去两周内蚊虫叮咬史，未接触过寨卡病毒病患者，周围人员未出现相关症状。鉴于该旅客具有寨卡病毒疫情发生国危地马拉的居住史，不能排除寨卡病毒感染嫌疑。

现场检验检疫人员经本人同意采集尿液、唾液进行检测，并将样本送至河南国际旅行卫生保健中心实验室进行检测。同时，河南检验检疫局将该旅客相关情况及时通报河南省卫生计生委，并将该旅客转送至郑州市第六人民医院进一步诊治。

经口岸现场寨卡病毒实时荧光定量 PCR 快速检测，该旅客尿样和唾液样本均检测寨卡病毒病核酸阳性。9 月 9 日，河南国际旅行卫生保健中心实验室和河南省疾控中心分别检测该旅客样本均显示寨卡病毒核酸阳性。9 月 12 日，经中国疾病预防控制中心进行复核检测，确认该病例为寨卡病毒感染病例。

其实，自 2 月 2 日世界卫生组织（WHO）宣布，新生儿小头症和其他神经系统病变，构成“国际关注的突发公共卫生事件”，这些病例可能与寨卡病毒流行密切相关以来，质检总局相继部署多项措施强化寨卡病毒病疫情口岸防控，动态开展寨卡病毒病疫情风险评估，联合八部委发布关于防控寨卡病毒病疫情传入我国的公告，要求各口岸加强入境检疫，防止疫情传入，并发布旅行警示，开展防病宣传教育等。

质检总局将继续按照寨卡病毒病疫情联防联控工作机制有关要求，加强与卫生计生等部门沟通配合，密切关注疫情动态，及时调整防控措施，严控疫情从口岸传入。

（责编：权娟、许心怡）

20160913A 河南省初のジカウィルス感染症輸入奨励（人民網）